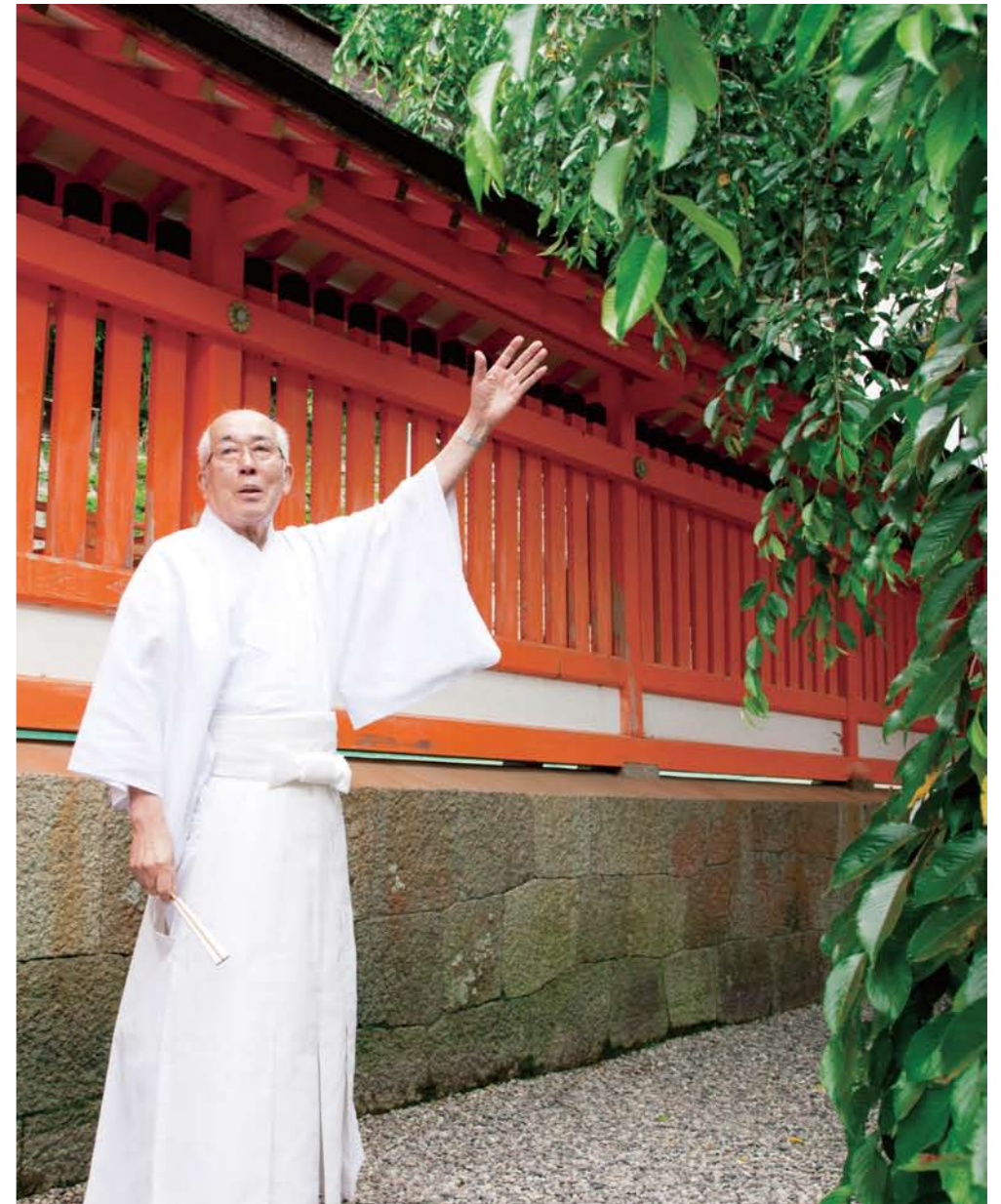




未来へと続く 自然との共生。



「船頭が命をかけて守ってくれた船。その遺志を引き継いでいくのが私たちの使命」。熊野川舟下りには世界遺産「川の参詣道」をたどる旅。編み笠姿で船に乗り込む語り部、西浦康代さんは、そっと涙を拭いた。その船頭は、船が流されないよう腰まで水につかっつなぎに戻ってくれた。その翌日、避難所の土砂崩れで止くなった。「熊野川を愛し、乗客にも細やかな心づかいを忘れない人です」

「船頭が命をかけて守ってくれた船。その遺志を引き継いでいくのが私たちの使命」。熊野川舟下りには世界遺産「川の参詣道」をたどる旅。編み笠姿で船に乗り込む語り部、西浦康代さんは、そっと涙を拭いた。その船頭は、船が流されないよう腰まで水につかっつなぎに戻ってくれた。その翌日、避難所の土砂崩れで止くなった。「熊野川を愛し、乗客にも細やかな心づかいを忘れない人です」

船頭が命を懸けて守った船
その遺志と励ましを胸に
熊野川舟下り／センター長品田顕二郎さん／語り部西浦康代さん

「川舟下りは連続と続いてきたもの。自分たちの代でへこたれちゃいけません」と品田センター長。「亡くなった船頭さんから教わった川の話、これからも伝えていくことが自分の使命」と西浦さん。

日本三大火祭りの一つ「那智の火祭(7月14日)」に使う重さ約50kgの大松明(たいまつ)。「台風被害があったからといって、神々への感謝をやめることはできません。むしろ、いつもより盛大にしないと」と朝日宮司。



「乗ることで応援に来ました」と大阪からやってきた家族連れの客もいた。従業員にとって、そんな励ましが何よりうれしい。
■熊野川川舟センター
住所／新宮市熊野川町日足350 熊野川総合開発センター内
電話／0735-44-0987



「自然の恵みへの感謝を忘れたらあかん。そのことを改めて思い出させてくれたんやと思います」。熊野那智大社の朝日芳英宮司は、こう言っ表情を引き締めた。昨年の台風12号。社殿は土砂で3層ほど埋まった。電話、電気も途絶えるなか腰まで水につかりながら役場に向かった。土砂の撤去に約2カ月。社殿の復旧もようやくめどがついた。しかし、どんな苦勞があっても、熊野の自

然、そして神の恵みに対する感謝を忘れてはならないという。「人間の尺度でものを考えていたら、熊野という地では、生きていけない。ここは神の地。それを肝に銘じて『災い転じて福となす』としなれば、自分を奮い立たせるためにも、今年の『那智の火祭』は、例年以上に盛大にするつもりです」。苦難を乗り越えることで、ますます強くなる。それが紀州魂なのだろう。

土砂に埋もれた社殿の前に、復旧の陣頭指揮に当たった朝日宮司。「人間本位でものことを考えたらあかん。台風はそのことを教えてくれました」。



社殿の復旧作業もめどがたち、元の美しい姿を取り戻した境内。大勢の参拝客が訪れている。
■熊野那智大社
住所／東牟婁郡那智勝浦町那智山1
電話／0735-55-0321

熊野川は元気になりました!

■熊野川舟下り 電話／0735-44-0987
大人3900円、子ども(小学生)2000円(要予約)。
問い合わせ／熊野川川舟センター

■湍峡ウォータージェット船 電話／0735-22-6220
8月31日までは、通常3340円(志古一湍峡往復)の大人料金を15%割引。
1日8便(10月まで)
問い合わせ／熊野交通株式会社

■北山川観光筏下り 電話／0735-49-2324
大人6000円(8月のみ 7000円)。1日2便。
問い合わせ／北山村観光センター(北山村観光産業課)